

ひだまりに
未来がふくらむ
信州・みよた



文化・高原公園都市 御代田



安心して暮らせるまち、楽しく暮らせるまち

標高2,568m、日本を代表する活火山浅間山の南山麓に広がる文化・高原公園都市 御代田町は、総面積の40%が上信越高原国立公園、妙義荒船佐久高原国定公園に含まれる高原の町です。

年間を通じて降水量が少なく、冷涼な気候は、おいしい高原野菜の栽培に最適です。

また、御代田駅があるしなの鉄道をはじめ、北陸新幹線、上信越自動車道などの交通網も利用しやすく、多くの企業が生産拠点を設けています。

この環境を求めて移住する家族も増え、人口減少社会と言われているなかでも御代田町の人口は漸増を続けています。

私たちがつくりたいのは、誰もが安心して子どもを生み、

地域みんなの見守りのなかでしっかり育て、子どもたちが大きな夢を描ける社会。

その子どもたちは、このまちをきっとさらに元気にしてくれます。

そんなすばらしいサイクルを持つ御代田町を実現したい。

—新しいまちづくりのムーブメントをご覧ください。

雄大な浅間山の自然に抱かれた御代田町は、先人の皆様のご尽力により、これまで着実に成長してきました。

平成に入って最初の平成2年国勢調査では11,895人だった人口は、令和2年では約15,500人まで増えております。

人口減少時代にあっても、高原の環境と首都圏等とのアクセスの良さから、多くの皆様に選ばれる町となっています。そして私もまた、平成30年に越してきたばかりの移住者です。

平成31年2月に町長就任以来、公設学習塾の開設、小中学校の給食費無償化等の独自政策を進める一方、高齢化が進行する中でも介護保険料は据え置き、国保税はむしろ値下げに舵を切りました。町民の皆さんの所得の堅調な伸びと広報戦略や産業振興によるふるさと納税の顕著な増加分を、できるだけ町民に還元しています。

令和元年には東日本台風、2年からは新型コロナウイルス感染症と、相次ぐ災厄に遭ってきましたが、復旧工事や経済対策、家計への支援などスピード感にこだわって対応してまいりました。今後は、中長期の課題の解決に向き合い、夢あふれるまちづくりに全力を傾けてまいります。



御代田町長

小園拓志



御代田町観光キャラクター
みよたん©



町章

御代田町の「みよ田」の3文字を表し、町が力強く発展すると願う力と鳥が未来に飛びたんとする様を图案化したものです。
町章は、昭和42年8月25日に制定しました。



シンボルマーク

町の花である「やまゆり」をモチーフに、花の下に浅間山の稜線と煙をやわらかい曲線で構成したものです。花の3つのおしべ部分の赤は、町の「農業」、「商・工業」、「観光と自然・人・ふれあい」を表現しています。



ようこそ！ひだまりのまちへ



町花/やまゆり



町民憲章

わたしたちは、雄大な浅間山にいだかれた、水清く、緑豊かな高原の町、御代田の町民です。

わたしたちは、この恵まれた環境の中で、先人の心を受けつぎ、町民としての誇りと責任をもって、人間性豊かな、明るい活力のある町をつくるために、ここに御代田町民憲章を定めます。

- 一、緑あふれる自然を大切にし、美しい環境の町をつくりまます。
- 一、教養を高め、かおり高い文化の町をつくりまます。
- 一、働くことに、誇りと喜びをもち、伸びゆく産業の町をつくりまます。
- 一、思いやりの輪をひろげ、心のふれあう、あたたかな町をつくりまます。
- 一、からだをきたえ、生き生きとした、明るい町をつくりまます。

(昭和62年9月25日制定)

町木/いちい

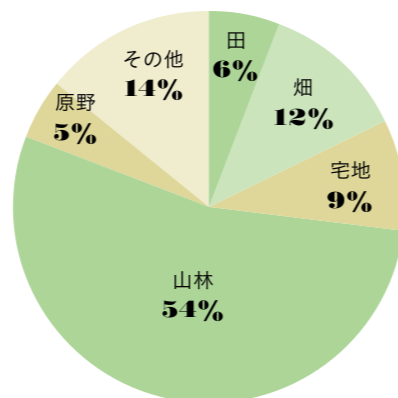


位置

面積 : 58.79km²
東西 : 9.5km
南北 : 13.8km

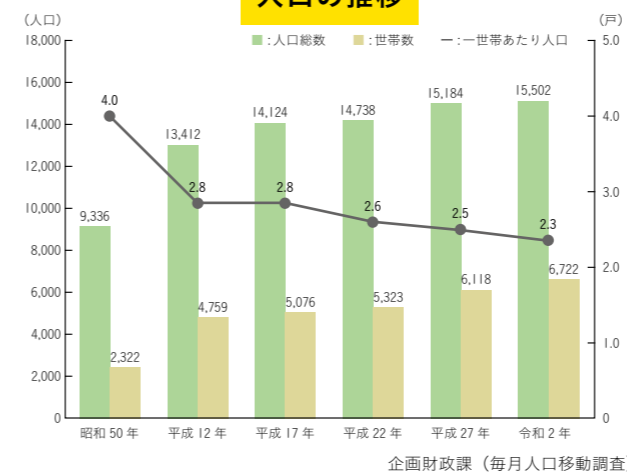


土地データ



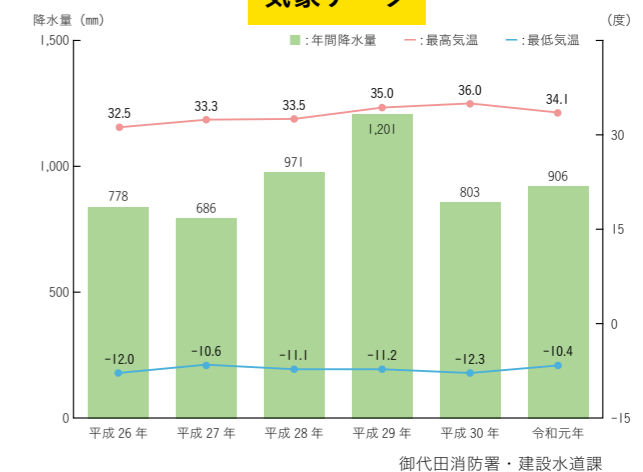
税務課 (令和元年度概要調査)

人口の推移



企画財政課 (毎月人口移動調査)

気象データ



御代田消防署・建設水道課

浅間山にふりそそぐ陽ざしを浴びて、 人も自然も育まれてきた



旅をする蝶「アサギマダラ」

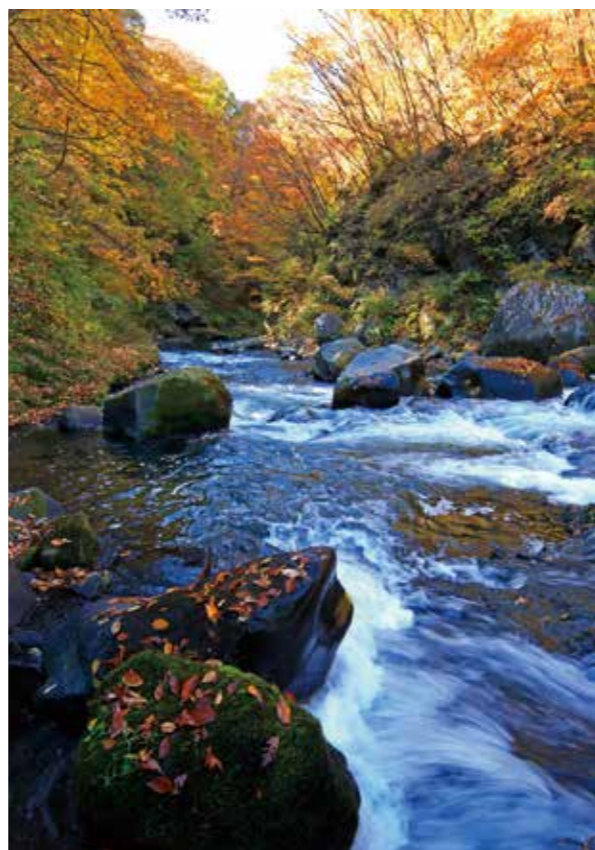
御代田町の自然がもつ個性は浅間山抜きには語れません。町域は浅間山の南斜面に広がっているため、町内どこからでも北側にそびえる雄大な山容を見ることができ、その美しさは町民の誇り。町内でとくに美しく見える場所を「浅間八景」として町内外にPRしています。とはいえ、今なお活動を続ける火山で、山頂付近には^{ぎっばやま}牙山、剣ヶ峰、「天狗の路地」など、かつての火山活動を感じさせる峻厳な地形も見られます。

浅間山の広い山麓は、豊かな地下水をたたえ、湧水は降水量の少ない御代田町の田畑を潤すと同時に、私たちの身近に美しい自然景観をつくり出しています。^{にこりがわ}濁川は山腹の源泉「血の池」から流れ出で、硫化鉄を多く含む水は特有の茶色に変わります。また、湯川溪谷の^{つゆきりきょう}露切峡は流域随一の景勝地として知られ、溪流釣りの人気スポットとなっています。

江戸時代末期に造林され、日本最古といわれるカラマツ人工林をはじめ、人と自然が協力して生み出した景観も自慢です。真楽寺に隣接する浅間しゃくなげ公園では毎年5月にシャクナゲが、7～8月には町内各所でヤマユリを見ることができます。

露切峡

新緑、紅葉と季節感あふれる景観が美しい。ハヤ、アユ、ヤマメなど豊富な川魚が生息し、野鳥も多い。釣り人にもバードウォッチャーにも人気がある。



浅間しゃくなげ公園

例年、4月下旬に「浅間しゃくなげ公園まつり」が開催され、地元食材を使った屋台や魚のつかみどりなど多彩なイベントが開催される。



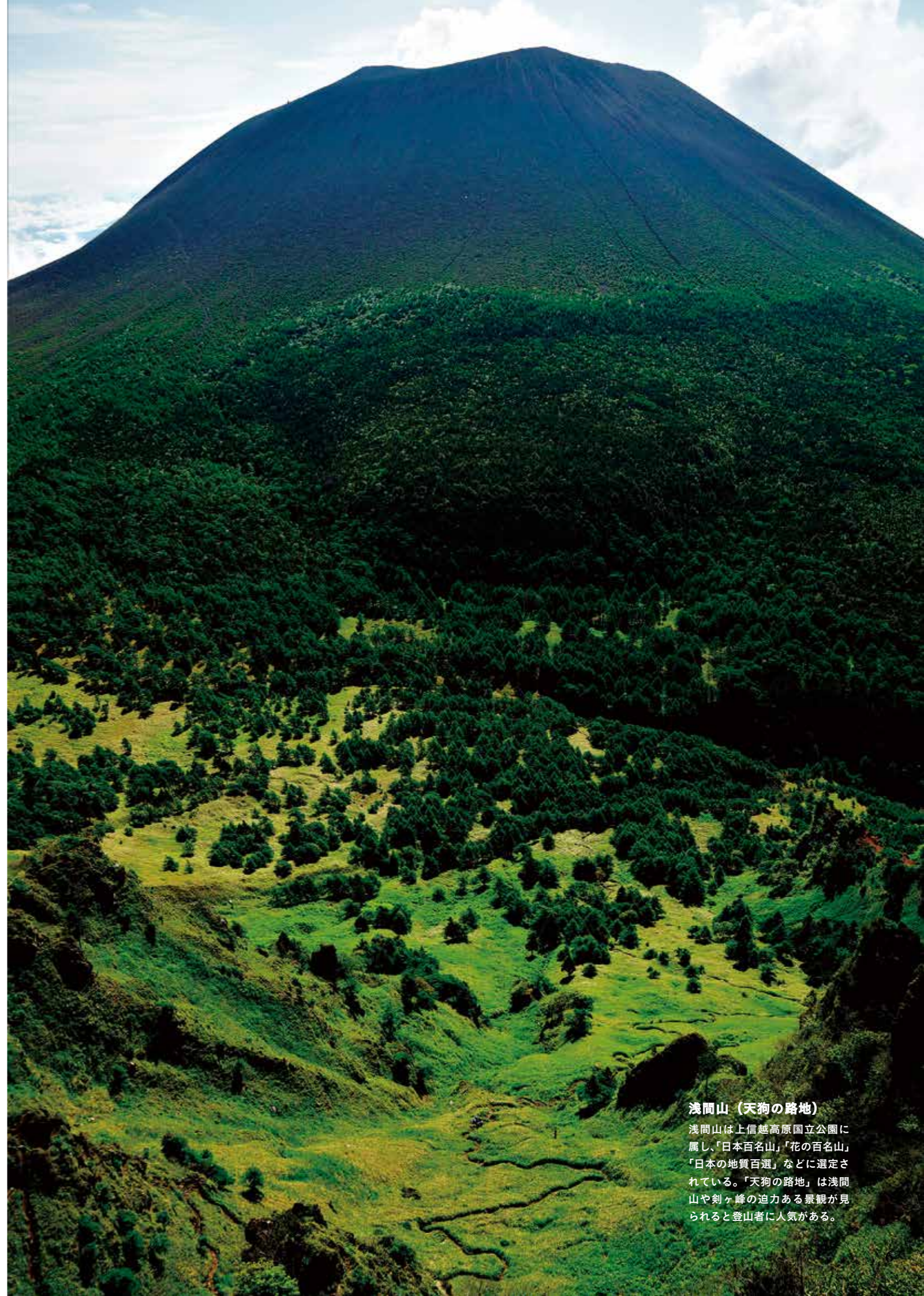
濁川

標高1,500m付近の源泉「血の池」は御代田町の飛び地。流れ出た水は濁川となり、田畑を潤す。



大沼の池

御代田に伝わる龍神・甲賀三郎伝説発祥の地。信州の名水・秘水に選定されている。



浅間山（天狗の路地）

浅間山は上信越高原国立公園に属し、「日本百名山」「花の百名山」「日本の地質百選」などに選定されている。「天狗の路地」は浅間山や剣ヶ峰の迫力ある景観が見られると登山者に人気がある。

[PROFILE ● 歴史・縄文時代]

5000年前、浅間山麓に暮らす人々の エネルギーが力強く実をむすんだ 焼町土器を誇りたい

長野県は縄文遺跡が多いことで全国的に知られていますが、その多くが八ヶ岳西南麓に集中しています。浅間山麓では遺跡の存在がしっかりと捉えられておらず、数少ない出土品から独自性のある縄文中期文化は明確にされていませんでした。

その定説を一変させたのが、平成2年(1990)に発掘調査された川原田遺跡。住居46軒からなる集落跡が見つかり、浅間山の火山のエネルギーを感じさせるような力強い独特のデザインを施された焼町土器が出土したのです。焼町土器は、塩尻市焼町遺跡で出土した土器から名付けられ、メガネ状の装飾や流れるような粘土が渦巻きになって幾重にも重なりながら生み出す調和と力強さ、伸びやかさなどが特徴です。出土した土器や土偶、石器など146点は、平成11年(1999)に一括して国の重要文化財に指定されました。

浅間縄文ミュージアムでは、この貴重な出土品類を展示。出土した人骨や装身具から、5000年前の女性の姿を再現するなど、浅間山麓で栄えた縄文中期の狩猟採集文化が見えるように展示に工夫を凝らしています。また、子どもたちが土器や勾玉づくり、火おこしなど縄文時代の暮らしを体験できる工房も運営し、この地に生きた太古の人々の息づかいが感じられる貴重な施設になっています。



顔面装飾 (国重要文化財)



弓矢をひいて、縄文の狩人に挑戦!



粘土のヒモの輪を積み上げて縄文土器をつくらう

土器、石器、勾玉、ビーズ、ハンコなどをつくる体験、火おこしや弓矢で狩猟体験、縄文時代の織り方でコースターをつくるアングリ織りなどが体験できる。土器は1か月ほど乾燥させて焼き上げる。



浅間縄文ミュージアムは土器や土偶、石器の展示をはじめ、縄文時代の女性による土器製作の立体展示や体験工房など、子どもたちを飽きさせない展示が特徴。また、ユニークな企画展を開催するなど、御代田町の文化情報発信基地の役割も果たしている。



浅間縄文ミュージアム

エコールみよたに併設されている縄文文化と浅間山をテーマとした博物館。川原田遺跡や長野県宝「顔面装飾付釣手土器」を出土した宮平遺跡などの出土品を常設展示しているほか、浅間山の成り立ちから火山活動、山麓の動植物、四季の風景などを展示している。

川原田遺跡の焼町土器 (国重要文化財)

5000年前の深鉢型土器。ダイナミックな文様のうねりは、単なる器であることを超え、現代人に訴えかけてくるような迫力がある。川原田遺跡の焼町土器は火焔土器や水煙文土器とともに縄文時代土器工芸の最高傑作といわれている。



火山を鎮める祈りの地から、 中山道を行き交う旅人のまちへ——



皇女和宮拝領人形

この地に生きる人々の暮らしは、古代から火山とともにありました。真楽寺は奈良時代以前の586年、用明天皇の勅願により浅間山の噴火が鎮まることを祈願して建立されたと伝えられています。その後、源頼朝が浅間山での巻狩りの際、真楽寺に立ち寄ったとも言われています。仁王門、三重塔、観音堂、神代杉など、寺を構成する多くが長野県や町の文化財に指定されています。

江戸時代には五街道の一つ、江戸と京を結ぶ中山道(木曾街道)の宿場が置かれました。京からは浅間三宿となる追分宿の手前、日本橋から数えると21

番目になる小田井宿です。当時、旅籠が少なく小規模だったため、参勤交代の大名は追分宿を利用し、小田井宿は姫君の宿泊にあてられたことから「姫の宿」と呼ばれました。文久元年(1861)、皇女和宮が將軍家に嫁ぐ際に休泊した本陣をはじめ、問屋などが残り、千本格子の窓の家並みが往時の姿を今に伝えています。

御代田町は、追分宿で中山道と分かれて北陸方面に向かう北国街道の道筋にもあたります。江戸から善光寺参拝に向かう旅人が利用したため善光寺街道とも呼ばれ、多くの人や荷で賑わいました。



小田井宿まつり

皇女和宮が小田井宿本陣で休泊した折、給仕した少年が童子の人形を拝領したと伝えられ、まつりではその様子を再現する。和宮に扮した女性と童子の人形をかごに乗せ、行列が宿場内を練り歩く住民手づくりのまつり。毎年8月16日開催。



御代田の一里塚

小田井宿から追分宿へ2kmほど進んだ場所に残されている。中山道の一里塚は多くが消滅しているが、保存状態がよく、長野県史跡に指定されている。

木曾街道六十九次 小田井(安藤広重)



真楽寺三重塔

三重塔は江戸時代初期に焼失後、中期の1751年に再建され、今は長野県宝に指定されている。



仁王尊 阿形



仁王尊 吽形

中山道

東海道とともに江戸と京を結んだ江戸時代の大動脈。距離は東海道より40kmほど長く、宿場も16宿多いが、東海道には大井川の川止めなどがあって予定が立てにくく、中山道を利用する人は多かったという。



祈りがパワーを生み出す 御代田のまつり



手桶の水は身を切るような冷たさ

浅間山麓の四季の移ろいのなかで、暮らしを彩るさまざまなまつりやイベントが催されています。とくに夏の「信州・御代田龍神まつり」と冬の「寒の水」は、御代田ならではのまつりとして、町民の誇りとなっています。

町民のこころをつなぐ龍神の舞

杉並木が茂るうっそうとした真楽寺境内に神秘的な水をたたえる大沼。この沼に伝わる甲賀三郎伝説※から生まれたまつりです。7月の最終土曜日、真楽寺で行われる龍の開眼式から始まり、勇壮な和太鼓や爆竹が響くなかで、眠りから覚めた巨大な龍が目を光らせ口から火を噴いて舞い始めます。やがて駅前、龍神の杜公園へと舞台を移し、クライマックス

は龍神と女性が担ぐ「舞姫」が舞い、最後に花火が夜空を彩ります。この2体の龍のほか、町内2校の小学生による「龍神丸」と「雪窓丸」があり、世代を超えて町民のこころが一つにむすばれます。

大寒の冷水に繁栄と健康を祈る

最低気温がマイナス10°Cにもなる御代田町の1月、日が暮れたころからまつりが始まります。主役の男衆は、粕汁を食べて体を温めると身も凍るような寒さのなかを、わらでつくった兔巾とんじんという冠をかぶり、草鞋わらじにふんどし一つといういで立ちで集落内へ。そして各所にある大桶の水を浴びて身を清め、五穀豊穡、無病息災を祈願して熊野神社に兔巾を奉納します。



龍神太鼓保存会「鼓響」の和太鼓演奏



女性が担ぐ舞姫も30mの長さ



夜空の花火がフィナーレを飾る



熊野神社に兔巾を奉納

寒の水

一年でもっとも寒さが厳しい1月の大寒の夜に行われる草越地区の伝統行事。真冬の水行によって身を清めるまつりは御嶽講の名残といわれる寒行の一種。今では山形県の余目、群馬県の長野原、そして草越地区と全国でわずか3例しか残されていない。長野県無形民俗文化財。



かつては川に飛び込む猛者もいたという

信州・御代田龍神まつり

佐久地方や諏訪地方に伝わる甲賀三郎伝説に基づいて、昭和57年(1982)から始まった町民総参加の夏まつり。龍神の長さは45m。日本一の長さといわれている。これまで平成10年(1998)の長野冬季オリンピック・パラリンピックなどで舞や太鼓を披露した。現在は町民有志による「龍の舞保存会」によって龍神の管理、舞の伝承が行われている。



※甲賀三郎伝説
昔、甲賀太郎、次郎、三郎という三兄弟がいた。正直者の三郎は人望もあり、美しい妻をめとる。それをねたんだ兄二人は三郎を夢科山の深い穴に突き落とす。三郎は妻を想い地底を這って何年もかけて地上へ戻ると、そこは真楽寺の大沼のほとり。水面に映る自分の姿は龍に変身していた。一方妻は、三郎を探して野山を駆けめぐり、悲しみのうちに諏訪湖に身を沈めて龍に変身。やがて龍になった三郎と妻は諏訪湖で巡り合う。



すごい！
写真でこんな
表現ができる
なんて!!



TOPICS
1

御代田から世界へ
新たなアート写真の聖地に

— 浅間国際フォト フェスティバル



「写真」の固定観念を打ち破る

一辺が3mを超える巨大写真や立体的に構成された展示、群衆を写した大きなパネル写真の中に来場者が入ってしまう作品、植物園のような空間で様々な作家の花の写真を展示したり、大小様々な箱を積み上げ、その側面に写真を展示したり…。閉ざされた館内で静かに来場者を待つのではなく、浅間山麓の大きな自然と一体になって、それぞれの作品がダイナミックに来場者に語りかけてきます。

これまで誰もが思い描いていた写真のイメージも



写真展とは思えない立体的な館内の展示。こちらの作品はフランスの作家、シャルル・フレジェさんの「CIMARRON」(シマロン)。

美術展のイメージも見事に壊して、来場者は作品への驚き、展示への驚きを隠せません。これが2018年から始まった「浅間国際フォトフェスティバル」です。御代田町とビジュアル・コミュニケーション事業を展開する株式会社アマナが共同で開催し、2019年には国内外の写真家40組による728点の作品が屋内外に展示され、9月14日～11月20日までの約2カ月間の会期に、約2万人が来場しました。

町民参加で世界屈指の写真展に

浅間国際フォトフェスティバルの特徴は、ユニー

クな展示だけではありません。御代田町民が積極的に参加し、この国際イベントを盛り上げていることも大きな特徴の一つ。その象徴が、御代田龍神まつりと成人式に特設スタジオを設けて希望者500人を撮影して合成した、全長100mの巨大作品。また、町内18の公民館では入り口にのれん型の大型写真を設置するなど、展示は敷地内に留まりません。

期間中はワークショップや町民向けの写真講座も開催され、御代田町はアート写真一色に。国内外から訪れる人々が、夏から秋にかけての浅間山麓の自



御代田町周辺で収穫された農産物を使ったフードやオリジナルスイーツも登場。



MMoP | 御代田写真美術館

建築家ジャン・ミシェル・ヴィルモットの設計による旧メルシャン軽井沢美術館が、アートフォト専門の美術館に生まれ変わる。開館は2022年夏予定。通称はMiyota Museum of Photographyの頭文字を取って「MMoP(モップ)」。



然に魅了されるのもうれしいことです。

2020年はコロナ禍の影響で開催できませんでしたが、今後、新設される御代田写真美術館とともにこのフェスティバルが大きく育ち、御代田町が「アート写真の聖地」として世界に知られるように盛り上げていきます。

御代田MAP



御代田町の主な施設

役場関係		
役場	馬瀬口 1794-6	0267-32-3111 (代)
教育委員会	学校教育係 馬瀬口 1901-1	0267-32-9100
	生涯学習係 馬瀬口 1901-1	0267-32-2770
	図書館係 馬瀬口 1901-1	0267-32-0800
	博物館係 馬瀬口 1901-1	0267-32-8922
	社会体育係 御代田 4107-72	0267-32-6114
	学校給食係 (共同調理場) 御代田 2718	0267-41-0237
御代田消防署	御代田 2382-3	0267-32-0119

保育園・幼稚園・小中学校・児童館		
やまゆり保育園	馬瀬口 2091-6	0267-32-2436
雪窓保育園	御代田 4107-117	0267-32-4166
杉の子幼稚園	御代田 2744	0267-32-4640
サムエル幼稚園	塩野 3180-558	0267-32-0541
杉の子幼稚園附属保育園 つくしんぼ	御代田 2743-1	0267-31-6360
たんぼぼ保育園	草越 1173-1786	0267-32-5396
小規模保育事業所 おひさま	御代田 4108-98	0267-31-6130
御代田南小学校	御代田 4107-41	0267-32-2034
御代田北小学校	馬瀬口 1935	0267-32-2069
御代田中学校	御代田 2718	0267-32-2117
東原児童館	馬瀬口 1499-2	0267-32-5769
大林児童館	御代田 4107-151	0267-32-0154

保健施設・福祉施設		
保健センター (役場東玄関側)	馬瀬口 1794-6	0267-32-2554
やまゆり共同作業所	御代田 2450-1	0267-32-1118
ハートピアみよた (社会福祉協議会)	御代田 1772-1	0267-32-1100
佐久広域老人ホーム 豊昇園	豊昇 1800-8	0267-32-6367
医療法人社団 御代田中央記念病院	御代田 4107-40	0267-32-4711

公民館・分館		
エコールみよた (御代田町公民館)	馬瀬口 1901-1	0267-32-2770

文化・スポーツ施設		
浅間縄文ミュージアム	馬瀬口 1901-1	0267-32-8922
御代田町立図書館	馬瀬口 1901-1	0267-32-0800
B&G 海洋センター	御代田 4107-72	0267-32-6114
雪窓公園球場	御代田 4107-96	0267-32-6114
やまゆり体育館	塩野 3025-2	0267-32-6665
カーリングホールみよた	草越 1173-1735	0267-32-0019

御代田町ふるさと大使
安藤千伽奈 (NGT48)

